

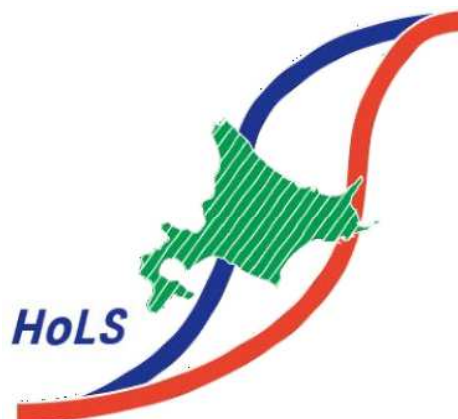
地すべり北海道 44

～北海道地すべり学会ニュース～

目 次

[技術講習会報告]	
令和7年度 技術講習会開催の報告 / 技術普及部	1
[現地検討会報告]	
令和7年度 現地検討会開催の報告 / 巡検部	2
令和7年度 現地検討会に参加して / 防災地質コンサルタント株式会社 奥村 旭生 ...	4
[総会・研究発表会・特別講演報告]	
令和7年度総会、研究発表会、特別講演の報告 / 事業部	5
[委員会活動報告]	
技術委員会・研究調査委員会・企画委員会 / 各委員会	7
[事務局より]	
学会の動向と記録	12
[お知らせ]	13
 [賛助会員名簿]	
 [学会役員幹事運営委員名簿]	
 [編集後記]	

2025年12月



[技術講習会報告]

令和7年度 技術講習会開催の報告

北海道地すべり学会 技術普及部

1. はじめに

技術普及部は、地すべりに関する調査、観測、解析、設計、対策まで、一連の基礎知識を習得することを目的に、年に1回のペースで技術講習会を毎年実施しています。

講習会の内容は、幹事やベテラン技術者等による地すべりの概要、調査、解析、対策工に関する基礎的講習や最近の話題の提供や、空中写真判読、安定解析などの実習も行います。このため、初級者だけでなく中級者まで、幅広い方にとって有意義な内容となっています。

2. 令和7年度技術講習会の内容

本年度の技術講習会は、7月4日（金）に、TKP ガーデンシティ札幌駅前（札幌市中央区北2条西2丁目19）カンファレンスルーム 5D にて実施いたしました。内容については、地すべりの概要、調査、観測方法、現地での見え方のほか、上久保内、幸内地区の地すべりを対象とした実体鏡および高精度地形図を使った地形判読実習、およびリモートセンシング技術を用いた地すべり調査の紹介を行いました。前回に引き続き、若い方にも参考になる内容であるということもあり、日本地すべり学会北海道支部の若手の会との共催とし、講習会の企画から当日の運営までを協力して実施し、終了後に懇親会を開催して若手参加者を中心とした意見交換を設けました。

プログラムを以下に示します。

I. 技術講習会

○開場・受付 13:10～13:30

○講習会：実務に役立つ地すべり調査の基礎知識

(1) 地すべりとは(概要～調査・観測方法) 13:30～14:10

講師 本間 宏樹(応用地質(株))

(2) 地すべりの現場踏査事例 14:10～14:40

講師 石田 博英(防災地質コンサルタント(株))

○休憩 14:40～14:50

(3) 地形判読実習 14:50～16:10

講師 石丸 聡(北海道立総合研究機構)

○休憩 16:10～16:20

(4) リモートセンシング技術を用いた地すべり調査

16:20～17:00

講師 宇佐見 星弥(北海道立総合研究機構)

II. 懇親会

時 間：17:00～19:00

会 場：TKP ガーデンシティ札幌駅前
カンファレンスルーム 5E



写真-1 講習の状況

技術講習会の参加者は47名と多くの参加をいただき、懇親会も18名の参加をいただくことができ、講師と参加者、参加者同士で活発に意見が交わされました。

また、参加者にアンケートを行い、今後受講したいテーマなどの要望や感想など、次回の講習会に向けての貴重な意見もいただくことができました。

3. おわりに

令和8年度の次回の技術講習会は、地すべりの安定解析、対策工の検討など、初級～中級者向けの内容を予定しています。時期や内容については、アンケートでいただきましたご意見ご要望を参考にし、改善を継続していきたいと思います。

[現地検討会報告]

令和7年度 現地検討会開催の報告

北海道地すべり学会 巡検部

1. はじめに

令和7年度の活動として現地検討会を実施しました。催行にあたっては、公益社団法人日本地すべり学会北海道支部との共催、一般社団法人北海道地質調査業協会、一般社団法人斜面防災対策技術協会北海道支部の協賛を得て、令和7年10月31日（金）に実施しました。

本年度は、「むかわ町福山橋地すべり、福山地すべり、平取町岩知志地すべり、オタリマップ川地すべり」について過年度からの経緯、発生の素因・誘因、変状状況、地すべり機構、管理状況等の説明を受け、現地見学を実施しました。また、若手の会、技術普及部とも連携し、8月29日に開催された技術講習会「もっと!地すべり地形判読」にて示された地すべり変位の SAR（合成開口レーダ）画像解析結果を現地で確認する内容となりました。

◇案内者

株式会社ドーコン	鈴木 俊司様
北海道大学 大学院 農学研究院	笠井 美青様
同	桂 真也様
北海道立総合研究機構	
エネルギー・環境・地質研究所	宇佐見 星弥様

◇参加者

一般参加者 14 名 案内者 4 名 幹事 2 名
総勢 20 名

2. 福山橋地すべり

福山橋は昭和 59 年に架設された 4 経間連続曲線鋼桁橋で、A1 橋台から P1 橋脚にかけて活動中の地すべりであることが確認されています。道路防災有識者検討会にて有識者の助言を受け対策方針を検討した結果、国道への直接的な影響が不明確で規模の大きな本体ブロックの対策は当面実施せず、国道への影響が明確な末端ブロックの対策を優先して実施することになり、地下水排除工（集水井、横ボーリング）、橋台アンカー工や桁切断工事が完了しています。

現地では干渉 SAR 画像解析の結果、地すべりブロック全体が大きく変動している状況や現在は橋梁計測や橋台アンカー張力の計測で管理していること等を説明していただき、各地すべり対策工の見学を実施しました。



写真-1 福山橋の桁下にて橋台アンカー等視察

2. 福山地すべり

福山地すべりは下方ブロック、主ブロック、その2ブロック（北側ブロック）に分かれており、それぞれ道路建設当初から各種地すべり対策が実施されています。対策は集水井、遮水工、抑止杭、押え盛土、頭部排土等、各ブロックの条件によって多様な対策が実施されました。

その後も集水井等の追加対策を実施することによって地すべりの変位は現在非常に緩慢にはなったことから、さらなる追加の対策は検討されておらず、定点観測によって変動状況を管理しています。

福山地すべりも干渉 SAR 画像解析の結果から、地すべりブロック全体が大きく変動している状況が確認されています。

現地では地すべり変動によってずれた中央分離帯や遮水工、目地ずれ・破損の著しい抑止杭頭部コンクリートや頭部排土後の現況地形等を見学しました。



写真-2 目地ずれが生じた下方ブロック抑止杭

3. 岩知志地すべり

本現地検討会にて視察した岩知志地すべりは沙流川の右岸に位置し、周辺一帯は蛇紋岩が広く分布し、地すべり地形が多く見られる地域内に位置します。地形判読では広い範囲で地すべり地形と認識されますが、中でも特に顕著に変動しているブロックについての調査結果等を説明していただきました。

現地では広い幅で地すべり崩壊堆積物様の露頭が確認されますが、すべり面は河川水面から約 7m 上に位置します。調査で現地入りする毎に地形変化が確認される様な活発に変動している地すべりですが、頻繁に崩壊が発生することから、河道を閉塞するような大規模な崩壊はこれまで確認されていないとのことでした。

当地すべりは主滑動方向と衛星視線方向の関係から SAR 差分解析では明瞭な干渉縞が見られないものの、航空レーザ測量では活発なブロックの周囲にも地形変化が抽出されるとのことでした。



写真-3 岩知志地すべりを遠望

4. オタリマップ川地すべり

現地検討会最後の見学地は岩知志地すべりから南東方向約 4km のオタリマップ川に面する地すべりで、小規模ながら極めて活発に変動している地すべりです。案内者の桂先生の研究室で調査中のところにお邪魔して説明していただきました。

地すべり変動による亀裂、立木の傾倒、幹割れ、倒木、沼、滑落崖露頭等が生々しい現場で、半年間で約 5m、タイムラプス画像から一度に数 m 移動することもあること、立木の密度にばらつきがあり、地すべり変動結果による可能性があること等を説明していただき、時間の許す限り各自自由に見学を行いました。

当地すべりも、地すべりの規模、主滑動方向と衛星視線方向の関係から SAR 差分解析では明瞭な干渉縞が見られませんでした。



写真-4 オタリマップ川地すべりにて定点カメラと一緒に集合写真

5. おわりに

例年の現地検討会は日本応用地質学会北海道支部、北海道応用地質研究会との共催としていますが、今年度は応用地質学会の北海道支部で全国大会を開催したため、地すべり学会（日本地すべり学会北海道支部、北海道地すべり学会）単独での開催となりました。各見学地とも地すべりの経緯、変動状況、対策・管理状況を体感できる現場で、参加者からも大変有意だったとの感想をいただきました。また、参加者の方から施工当時の対策経緯等について説明いただきました。

来年度も特に若手、新人には積極的に参加していただける様に魅力的な現地検討会となる様に企画したいと思います。

案内者の株式会社ドーコンの鈴木 俊司様、北海道大学 大学院 農学研究院 笠井 美青様、桂 真也様、北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所 宇佐見 星弥様には、ご多忙のところ現地検討会の資料作成、当日の説明を行っていただき大変お世話になりました。

最後になりますが昨年度に引き続き現地検討会を円滑かつ安全に進行することができましたのは、案内者、参加者、関係機関および関係業者のご協力の賜であり、この場を借りて厚くお礼申しあげます。



写真-5 アサヒビール園にて意見交換会

令和7年度 現地検討会に参加して

防災地質コンサルタント株式会社 奥村 旭生

1. はじめに

令和6年度より防災地質コンサルタント株式会社に入社いたしました奥村旭生と申します。

今回の現地見学会では、むかわ町穂別福山の福山橋地すべり・福山地すべり・平取町岩知志の岩知志地すべり・オタリマップ地すべりについてご案内いただきました。

【現地見学会の概要】

開催日：令和7年10月31日（金）

見学箇所：福山橋地すべり、福山地すべり、岩知志地すべり、オタリマップ地すべり

参加人数：20名（案内者4名含む）

案内者：（株）ドーコン 鈴木 俊司 様

北海道大学大学院農学研究院 笠井 美青 様
桂 真也 様

北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所

宇佐見 星弥 様



写真-1 福山橋地すべりの活動による伸縮装置部のずれ



写真-2 福山地すべりについて説明を受ける

2. 現地見学会に参加しての感想

今回の現地見学会は、技術講習会及び若手の会で地形判読を行った地すべりを実際に見学するという事で、大変有意義なものになりました。

福山橋地すべりは本体ブロックと末端ブロックに分けられ、末端ブロックの活動が橋台部の損傷を引き起こしたとのことでした。実際に伸縮装置部分のずれやパイプの変形を観察でき、地すべりが土木構造物に被害を及ぼす影響を学ぶことができました。

岩知志地すべりは、蛇紋岩上面をすべり面とする地すべりです。ボーリング地点での地下水位と日移動量の相関が弱かったのが意外で、地すべり土塊内の水量と移動量に強い相関があることが分かりました。

オタリマップ地すべりは、現在7つのブロックに分かれ、半年間で最大5m(3cm/日)動く箇所がある非常に活発な地すべりでした。多数の亀裂や樹木の傾倒などから、地すべり地形・移動方向をよく理解できる現場であると感じました。



写真-3 岩知志地すべり末端部

3. おわりに

今回の見学会では、地すべりの概要・干渉SARによる解析結果・対策工などについてご説明いただきました。現地にてご説明いただいた案内者様、企画していただいた地すべり学会の関係者様に厚くお礼申し上げます。



写真-4 オタリマップ地すべり滑落崖

[総会・研究発表会・特別講演報告]

事業部より — 令和7年度 総会、研究発表会、特別講演の報告 —

上山試錐工業株式会社 佐々木 隆

1. はじめに

今年度の総会・特別講演・研究発表会は、公益社団法人日本地すべり学会北海道支部および北海道地すべり学会の共催により、令和7年4月25日（金）に開催しました。

開催は、対面形式とオンライン形式との併用で開催した。対面形式は、「北海道大学 学術交流会館 小講堂」を会場として実施した。オンライン形式は、Zoom ウェビナーを使用し、北海道会員以外の日本地すべり学会会員にも聴講者を募集して実施した。なお、北海道会員以外の聴講者は、特別講演および研究発表会のみ参加可能とした。

会場参加者及びオンライン参加者を合わせ、総計 160 名の方にご参加頂き、滞りなく無事に開催することができました。なお、参加者 160 名のうち会場（対面形式）参加者は 96 名（北海道地すべり学会会員 73 名、支部会員 42 名、一般非会員 16 名、学生非会員 5 名：会員＝両学会入会者重複者含む）、オンライン参加者（道内）は 46 名（北海道地すべり学会会員 25 名、支部会員 9 名、一般非会員 16 名、学生非会員 1 名：会員＝両学会入会者重複者含む）、道外参加者は 18 名という内訳でした。

2. 総会

令和7年度の総会は北海道地すべり学会、公益社団法人日本地すべり学会北海道支部の順で開催し、両学会とも会場参加者には議案書を、オンライン参加者には電子版の議案書を配布し、オンライン参加者も含めリアルタイムで活動・決裁報告、質疑応答を行い、承認等の議決を行いました。

議案書に関する承認については、会場参加者は挙手にて、オンライン参加者は Zoom 機能アプリのアンケート機能にて承認投票を実施した。

投票の結果、令和6年度の活動報告・決算報告および令和7年度の活動計画・予算案について、参加者全員の承認がえられたため、本年度の議案について採択されたことを報告した。

3. 特別講演および研究発表会

特別講演は総会に引き続き、同形式にて公益社団法人

日本地すべり学会北海道支部および北海道地すべり学会の共催により、令和7年4月25日（金）に開催した。

特別講演は、野崎保氏（野崎技術士事務所）による「地すべりの素因・誘因そしてその初生について考える」でした。

研究発表会では計6件の発表が行われました。



写真-1 北海道地すべり学会総会
（議長：（地独）北海道立総合研究機構 奥水 健一 様）



写真-2 日本地すべり学会北海道支部総会
（議長：石丸 聡 支部長）



写真-3 野崎保氏による特別講演



写真-7 会場受付の様子



写真-4 特別講演会場の様子

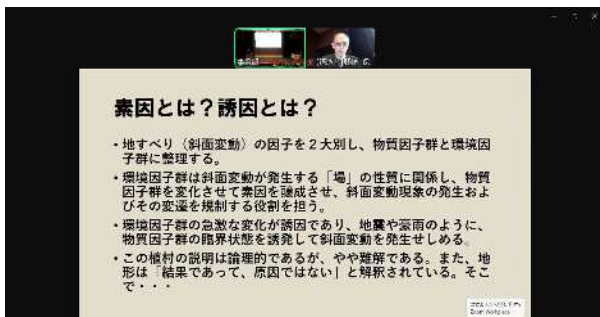


写真-5 特別講演の様子（オンライン上）



写真-6 研究発表会会場の様子

4. 意見交換会

今年度、総会、特別講演および研究発表会の終了後には、同施設の別会場（TKP 札幌駅カンファレンスセンター ホール 3C）にて開催し、参加者は 53 名で活発な意見交換が行われました。



写真-8 意見交換会の様子

4. おわりに

今年度も対面形式とオンライン形式との併用で開催した総会・特別講演・研究発表会ではありましたが、多くの会員の方々に参加して頂き、深く感謝申し上げます。特に、会場参加者がコロナ渦が明けてから徐々に増えてきており、コロナ渦以前の賑わいを取り戻しつつあります。これも会員様のご理解・ご協力のおかげであります。

来年度も同様の時期に総会・特別講演・研究発表会、意見交換会の開催を予定しておりますので、来年度も多くの方々に参加していただけることを楽しみにしています。

[委員会活動報告]

技術委員会より —令和7年度の実施内容と今後の活動計画—

株式会社シビテック 柴田 純

1. はじめに

技術委員会は、「地すべり調査、解析、対策工の選定、施工などの技術にかかわる分野を中心に討議を積み重ね、北海道の地すべり対策技術の向上に貢献する」を目的に平成4年に設立されました。

今年度は30名程度の委員で構成されており、そのメンバーは地すべり調査、解析、設計、施工、研究に携わるコンサルタント、ゼネコン、研究機関の方々と多岐にわたっております。

委員会は、各分野の委員が日ごろの業務や現場で遭遇した疑問点・問題点、実践した対処法などを紹介し、その技術について本音で議論し合う貴重な場であります。また、地すべりに関する諸基準や新技術などについても収集した情報等を随時発信しており、地すべり技術に関する情報収集の場となっております。令和5年度より、試行的に話題提供の際に現地参加に加えてWeb参加も可能とするハイブリッド形式による委員会開催を行っており、聴講者数が倍増しております。開催方法については改善の余地がありますが、今後も多くの会員の皆様にご参加いただけるよう工夫して参ります。

会員の皆様におかれましては、若手技術者の勉強の場として、また地すべりに従事する技術者の情報共有の場として、今後とも幅広く活用していただければ幸いです。

2. 令和7年度の実施内容

令和7年度は、9月26日に第1回技術委員会を開催いたしました。

2.1 第1回技術委員会

第1回委員会は、令和7年9月26日（金）にTKP札幌ビジネスセンター赤レンガ前、カンファレンスルーム5J会議室において開催しました。また、オンライン参加も可能なハイブリッド形式としました。参加者は現地参加31名、オンライン参加18名の計49名でした。議題は、以下のとおりです。

2.1.1 話題提供

地すべりに関わる調査技術や対策技術について、2件の話題提供を行いました。詳細は以下に記載します。

・地すべり調査設計業務で活用する三次元モデリングの基礎（話題提供者：国土防災技術北海道株式会社 平元 万晶 様）

平元様は、地すべり調査設計における3次元モデリングの有効性について解説され、3Dモデルの基礎的操作を

実演いただきながらご紹介いただきました。

・能登半島地震による地すべり被害と今後の課題（話題提供者：国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべりチーム 杉本 宏之 様）

杉本様は、能登半島地震による地すべり発生状況や斜面对策施設の被害、さらに地震地すべりの発生メカニズムや危険度判定評価の開発、今後の斜面对策施設の設計の方向性などについてご講演をいただきました。



平元 万晶 様（国土防災技術北海道株式会社）による
話題提供



杉本 宏之 様（国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理
研究グループ 地すべりチーム）による話題提供

2.1.2 委員会活動

技術委員および北海道地すべり学会会員、関係者等にご参加いただき、令和6年度に当委員会内に発足した「抑止杭に関するWG」と、「話題提供・地すべり技術に関するQ&Aに関するWG」に分かれて、近年の技術委員会において定着しつつあるグループ討議形式にて意見交換を行いました。

抑止杭WG活動に関しては、初参加の方に向けて、抑止杭WGの設立経緯、今後の予定などを説明しました。その後、今回のテーマだった抑止杭設計施工の事例収集アンケートについて、収集すべき項目などアンケートの具体的な様式などについて議論しました。また、発注者サイドとの問題意識の共有が重要で、地すべり対策は一般工法で対応できない特殊性があることを認識してもらうことが大切という意見も挙がりました。

話題提供に関しては、地すべり技術者の関心が高いと思われるテーマについて意見を出し合い、「DX（自動設計）」「3次元解析」「リモートセンシング技術」「高品質ボーリング技術」などの話題提供を希望する意見があったほか、若手技術者からの発表を望む声も挙がりました。過年度から積み上がった意見もあるので、多数のテーマの中から次回委員会での話題提供テーマを選定していきます。

地すべりに関するQ&Aに関しては、前回までの議論を総括した上で、以下に示す6項目を選定してQ&A集の作成に取り掛かりました。

- 1) すべり面の推定方法
- 2) 地下水調査
- 3) アンカー反力体
- 4) リモートセンシング
- 5) 地すべり範囲の決め方
- 6) 地すべり施設の維持管理

これらのテーマに対するQ&Aについては、次年度前半に北海道地すべり学会HPへの掲載を目標とします。



委員会では3グループに分かれて各テーマについて議論を交わします。



委員会の最後には、各グループで議論した内容を発表して情報共有しました。

3. 今後の活動計画

今年度は、令和8年2月に第2回委員会を開催する予定です。技術委員会では、次年度も引き続き地すべりに関わる技術者への情報発信と提言を行うことを目標に、年2回程度の委員会を継続的に開催し、以下の活動を行う予定です。

3.1 話題提供

地すべりに関わる調査技術や対策技術について、2～3件程度の話題提供を行います。次年度も、会員の皆様に継続的に聴講していただけるように、会員の関心が高いテーマを計画的に設定するなどの工夫を行いたいと考えています。

3.2 地すべり技術に関するQ&A

「地すべり技術に関するQ&A」とは、日頃より地すべり業務に関わる一般会員（特に若手技術者）から地すべり技術に関する質問を受け、その回答例について技術委員会内で討議し、その結果をHPに掲載し情報発信を行う活動です。

回答内容は、単に指針・要領に回答例が記載されているものにとどまらず、ベテラン技術者の経験に基づく内容についても取り挙げます。

3.3 地すべり抑止杭ワーキンググループ活動

R1年度に本委員会において実施した「第3回地すべりアンケート」をきっかけに課題として挙げた「抑止杭の施工方法」について提言を行うことを目標として本ワーキンググループを発足しました。課題としては、設計段階で選定した工法が現地に適さず施工時に工法変更を強いられる事例が多く発生する事でした。そのため、本ワーキンググループでは、設計者と施工者が意見を交わしなら、工法一覧表や工法選定フローチャートなどを作成し、設計段階において現地条件に適した工法をスムーズに選定できる仕組み作りを目指しています。

研究調査委員会より —令和7年度の活動報告—

寒地土木研究所 倉橋稔幸

1. はじめに

研究調査委員会では、テーマ調査研究についての情報交換、作業の確認を行うほか、これに関連した話題や最近注目を集めている事例・調査・研究を行っています。また、北海道内で大きな災害が発生した際には調査への派遣を行っています。今年度の活動概要は、以下のとおりです。

定」に基づき、5学会支部と調整のもと、調査員を派遣し現地調査を実施します。しかし、今年度に道内では大きな災害が発生しませんでしたので、災害派遣はありませんでした。

2. 委員会の開催

今年度は、委員会を2月～3月に以下の要領で開催予定です。年度末でもあり、近年の参加状況も踏まえ、対面形式及びZOOMによるオンライン形式とのハイブリッド形式で開催します。

委員会では話題提供のほか、テーマ調査研究のとりまとめを議題とする予定です。なお、詳細については、決まり次第、改めて会員の皆様にメール等にてお知らせします。

1) 日時: 令和8年2月～3月

2) 開催形式: 対面及びZOOMによるオンライン形式

3) 場所: 市内

3) 議事次第:

(1) 話題提供 (未定)

- ・災害事例の報告
- ・胆振東部地震のテフラ層すべり、岩盤すべりに関する話題など

(2) テーマ調査研究のとりまとめについて

3. テーマ調査研究

平成30年北海道胆振東部地震におけるテフラ層すべり及び岩盤すべりには、災害メカニズム、発生場所の偏り等に未だ課題が少なからず残されています。そこで、委員会ではテフラ層すべりと岩盤すべりについてテーマ調査研究として取り組んでいます。今年度は委員会にてとりまとめ方針について議論したいと考えています。

4. 災害調査

道内で大きな地すべり災害が発生した際には、地すべり学会北海道支部が緊急調査団を編成する際に、本委員会は調査員を派遣するなど、活動に協力しています。その他、北海道開発局と道内災害関連5学会支部との間で締結された「災害等に関わる調査の相互協力に関する協

企画委員会より —令和7年度の活動報告—

株式会社開発調査研究所 銭谷 竜一

1. はじめに

企画委員会は、地域住民や子供たちが科学的知識に基づいて自分の判断で確かな防災・減災活動を行えるよう、土砂災害についての知識を普及することを目的として平成17年（2005年）に設立されました。

企画委員会では、一般市民や学生を対象として、地すべりに関する知見や情報についての発信や出前授業などのアウトリーチ活動を企画・開催しています。

2. 令和7年度活動報告

2-1. 地すべり防災授業

北海道岩見沢農業高等学校 森林科学科の3年生33名を対象として、「山地防災教室 野外巡検」を開催しました。

開催日 令和7年5月30日（金）9:00～16:45

場 所 ①当別町 道民の森神居居地区 治山の森
②当別町 道民の森 路面変状箇所
③新十津川町 国道451号地すべり対策箇所
④当別町 国道451号地すべり対策箇所
⑤当別町 当別川流域の地質露頭

参加者（講師）（順不同、敬称略）

防災地質工業株式会社	石田 博英
北海道土木設計株式会社	中鶴 真也
明治コンサルタント株式会社	溝上 雅宏
和光技研株式会社	宿田 浩司
ホクボウコンサルタント	渡邊 司
株式会社開発調査研究所	銭谷 竜一

治山の森（①）では、法枠工、床固工、雪崩防止柵、鋼製スリットダムなどの治山施設を見学し、治山事業の重要性と工事の種類、設計の考え方を学習しました。

その後、地すべりによる路面変状箇所（②）で地すべり発生時に現れる地形的特徴を見学し、昼食後に地すべり対策工施工箇所（③：アンカー付き擁壁工、④集水井工・杭工）を見学して地すべりによる地形変状と対策工の調査～設計～施工までの流れについて学習しました。

最後に当別川沿いの地質露頭（⑤）で新第三紀の堆積岩（当別層の細粒砂岩）と第四紀の段丘堆積物を観察しました。生徒たちは自ら露頭を削ったり叩いたりしながら、河川の浸食と堆積による河岸段丘による形成、風化状態の違いや植生の変遷などの野外調査の着目点、治山事業など公共事業における地質調査の重要性について学

習しました。

防災授業終了後に近江勉校長先生よりお礼状をいただいたほか、同校のホームページに研修の実施状況が掲載されました（右のQRコードから「7学科のページ」→「森林科学科」を参照ください）。



写真-1 地すべり防災授業
（④ 国道451号地すべり対策箇所）

2-2. 地すべり模型の展示実演

（1）山地災害防止キャンペーン パネル展

山地災害防止キャンペーンは山地災害に対する理解や関心を高めるとともに、山地災害防止に対する危機管理体制を強化するため、林野庁と都道府県により毎年梅雨期の前に全国で実施されており、北海道では道内の山地災害や治山事業を紹介して山地災害に備えるPR活動として「山地災害防止キャンペーン パネル展」を開催しています。

企画委員会では地すべり模型の展示実演を行いました。2日間の来場者はコロナ過前と同程度の238名で、21回実演を行いました。

主 催 北海道水産林務部林務局治山課
開催日 令和7年6月12日（木）～6月13日（金）
場 所 北海道庁1階ロビー 道政広報コーナー
特設展示場B

参加者 (順不同、敬称略)

株式会社ノース技研	沼田 寛
明治コンサルタント株式会社	溝上 雅宏
株式会社シビテック	柴田 純
国土防災技術北海道株式会社	伊藤 浩介
株式会社地圏総合コンサルタント	高橋 拓也
和光技研株式会社	宿田 浩司
株式会社開発調査研究所	銭谷 竜一

株式会社地圏総合コンサルタント	高橋 拓也
株式会社開発調査研究所	銭谷 竜一



写真-2 地すべり模型展示実演
(山地災害防止キャンペーン パネル展)

(2) ジオ・フェスティバル in Sapporo 2025

ジオ・フェスティバルは、実験や展示を通して子供たちや一般市民が地球科学に関心を持つとともに環境問題・自然災害・防災にも目を向け、科学する姿勢を育むことを狙いとして毎年開催されています。

今年度は学会、研究所、博物館、大学のゼミや地学サークル、高校の地学部、第一管区海上保安本部など17団体がブースを設け、未就学児の児童でも楽しめるイベントとなりました。

企画委員会では地すべり模型の展示実演を行いました。展示実演は午前・午後あわせて20回行い、計81名(内訳は小学生以下37名、中学生以上44名)の方に見ていただきました。子供たちには噴霧器で雨を降らせたり、家屋や樹木・電柱などのジオラマを設置したりする作業を手伝ってもらい、楽しく体験しながら土砂災害について学んでいただきました。

主 催 ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会
共 催 札幌市青少年科学館指定管理者(公財)札幌市生涯学習振興財団、北翔大学

開催日 令和7年10月5日(日)10:00~16:00

場 所 札幌市青少年科学館 2階特別展示室

参加者 (順不同、敬称略)

株式会社ノース技研	沼田 寛
和光技研株式会社	宿田 浩司



写真-3 地すべり模型展示実演
(ジオ・フェスティバル in Sapporo 2025)

4. おわりに

企画委員会のアウトリーチ活動は「対面で」「実物や模型を見る・触る」ことによって土砂災害に関心を持っていただけるような内容を中心としてきました。

今年は大きな災害が少なかったものの、令和6年能登半島地震や令和6年9月能登半島豪雨などの報道により、出前授業の高校生、山地災害防止キャンペーン パネル展やジオ・フェスティバルの来場者にも土砂災害に関心を持つ人が多かったと感じました。報道などにより土砂災害についての関心を持っていても、実際の対策工や模型を間近で見て「ニュースではわからなかった」との感想をいただくことがあり、実感を伴うアウトリーチ活動の重要性を改めて感じています。

企画委員会では土砂災害の啓発や防災教育などのアウトリーチ活動に関心をお持ちの会員の皆様の参加を募集しています。参加をご希望の方は事務局までご連絡ください。

学会の動向と記録

防災地質コンサルタント株式会社 石田 博英

1. 学会の動向と記録

令和7年度 第1回 幹事会・運営委員会

日時：令和7年7月15日

開催方法：対面

会場：TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前

内容：事業計画と実施状況、予算執行状況、会員状況

令和7年度 事業計画の実施状況

12月時点の事業の実施状況および予定を右表に取りまとめました。詳細につきましては、各部・各委員会報告をご参照下さい。

表 令和7年度事業計画

日付	令和7年度 事業計画・実施状況	
4月11日	拡大事務局会議	事務局 関係部会長
4月25日	総会・研究発表会	事業部
5月30日	山地災害教室 野外巡検	企画委員会
6月12日	山地災害防止キャンペーン	
6月13日	第7回ランドスライドクラブ	シニア会
7月4日	技術講習会	技術普及部 若手の会
7月15日	第1回幹事会	幹事全体
8月29日	もつと！地すべり地形判読	若手の会
9月26日	第1回技術委員会	技術委員会
10月31日	現地検討会	巡検部
9月27日	第1回技術委員会	技術委員会
10月5日	ジオフェスティバル in Sapporo	企画委員会
12月10日	技術交流会	若手の会 シニア会
調整中	第2回技術委員会	技術委員会
	第2回幹事会	幹事全体
	研究調査委員会	研究調査委員会
通年	広報(HP管理, メール配信)	広報部

2. 会員状況（北海道地すべり学会）

令和7年12月12日現在の会員 228名

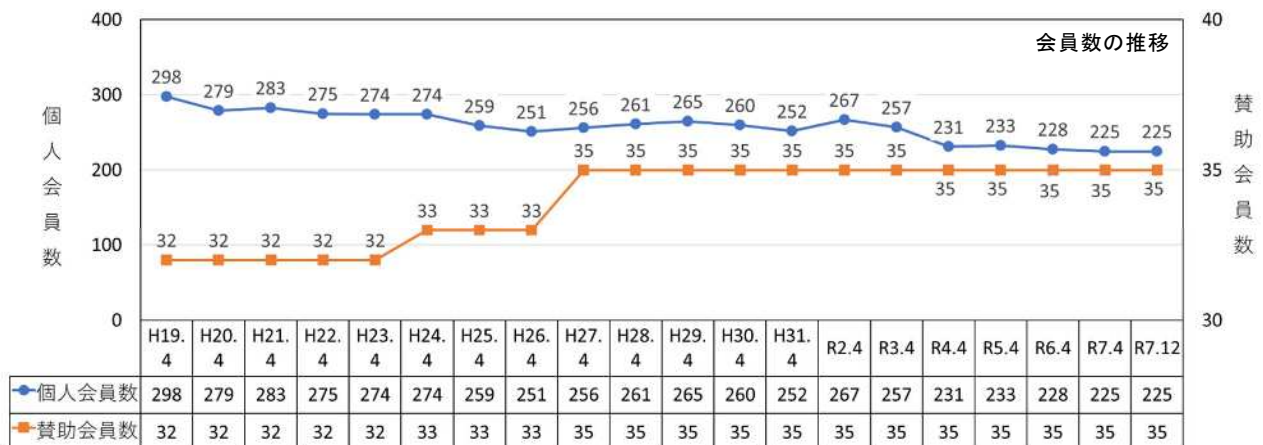
新規入会：12名，退会：12名

- ・官公庁・大学関係者：23名
- ・民間関係者：202名
- ・賛助会員：民間 35団体・社

【所感】

・今年度は計画通りに各部会の活動が催行されました。技術講習会では多数の若手技術者が参加され、活発な研修となりました。また、若手の会では技術講習会で扱った地すべり地形判読の続編に、さらに踏み込んだ内容を取り上げ、実習を含んだ細かな内容の研修ができました。若手の会とシニア会による「技術交流会」では、昨年度増加した参加者を維持し、今年度もほぼ同数の参加者数となり、若手技術者の皆さんへの、意見交換や技術研鑽の場を継続して提供できた結果が表れているものと感じております。

・会員数は昨年度と比較してほぼ同数となっており、若手技術者をはじめ、非会員の地すべり関係者へ学会の魅力アピールを強化し、会員数の増加につながるように価値ある活動の企画・運営に取り組んでいく所存ですので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



[お知らせ]

(社) 日本地すべり学会北海道支部、北海道地すべり学会 令和 8 年度総会のご案内 (事業部)

令和 8 年度総会、特別講演および研究発表会は、令和 8 年 4 月下旬～5 月上旬に開催する予定です。会場は北大学術交流会館（札幌市北区北 8 条西 5 丁目）他、調整中となります。詳細が決まりしだい、メーリングリスト等でご連絡を差し上げます。

[学会役員幹事運営委員名簿]

令和7年度 北海道地すべり学会 幹事 名簿

役職	氏名	所 属
会 長	石丸 聡	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
副会長	倉橋 稔幸	(国研)土木研究所 寒地土木研究所
副会長（技術アドバイザー）	磯貝 晃一	(株)開発調査研究所
監査委員（技術アドバイザー）	戸田 英明	(株)北海道朝日航洋
監査委員（技術アドバイザー）	伊東 佳彦	北電総合設計(株)
【幹事会】		
幹事長	清水 順二	(株)ジオプラ
副幹事長	渡邊 司	ホクボウコンサルタント
幹事	石川 達也	(国)北海道大学大学院 工学研究院
幹事（事業部長）	佐々木 隆	上山試錐工業(株)
幹事（事業部副部長）	佐々木 悟	サンコーコンサルタント(株) 札幌支店
幹事（事業部副部長）	日下田 亮	川崎地質(株) 北海道支店
幹事（広報部長）	青木 淳	(株)構研エンジニアリング
幹事（広報部副部長）	紙本 和尚	(株)シン技術コンサル
幹事（広報部副部長）	向久保 晶	基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社
幹事（巡検部長）	山田 結城	(株)ドーコン
幹事（巡検部副部長）	渡辺 一樹	大日本ダイヤコンサルタント(株) 北海道支社
幹事（巡検部副部長）	宇佐見 星弥	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
幹事（技術普及部長）	本間 宏樹	応用地質(株) 北海道事務所
幹事（技術普及部副部長）	永井 啓資	大地コンサルタント(株)
幹事（技術普及部副部長）	中鶴 真也	北海道土木設計(株)
幹事（研究調査委員会委員長）	倉橋 稔幸	(国研)土木研究所 寒地土木研究所
幹事（研究調査委員会副委員長）	笠井 美青	(国)北海道大学大学院 農学研究院
幹事（研究調査委員会副委員長）	渡邊 達也	(国)北見工業大学 地球環境工学科
幹事（技術委員会委員長）	柴田 純	(株)シビテック
幹事（技術委員会副委員長）	佐々木 裕一	北海道三祐(株)
幹事（技術委員会副委員長）	清水 龍来	日本工営(株) 札幌支店
幹事（企画委員会委員長）	銭谷 竜一	(株)開発調査研究所
幹事（企画委員会副委員長）	宿田 浩司	和光技研(株)
幹事（企画委員会副委員長）	高橋 拓也	(株)地圏総合コンサルタント 札幌支店
幹事（事務局長）	石田 博英	防災地質コンサルタント(株)
幹事（事務局次長）	岡崎 修	明治コンサルタント(株)
幹事（事務局次長）	岩間 倫秀	日本工営(株) 札幌支店
幹事（事務局次長）	伊藤 浩介	国土防災技術北海道(株)

オブザーバー	紺野 喬義	北海道開発局 建設部 道路建設課
オブザーバー	西村 義	北海道開発局 建設部 河川工事課
オブザーバー	樺元 淳一	北海道開発局 農業水産部 農業計画課
オブザーバー	松田 茂岩	北海道森林管理局 計画保全部 治山課
オブザーバー	青木 剛	北海道建設部 土木局 河川砂防課
オブザーバー	亀森 隆志	北海道農政部 農村振興局 農村整備課
オブザーバー	福地 恵介	北海道水産林務部 林務局 治山課

令和7年度 (社)日本地すべり学会北海道支部 運営委員名簿

役職	氏名	所 属
支部長（本部担当）	石丸 聡	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
副支部長	石川 達也	(国)北海道大学大学院 工学研究院
副支部長	笠井 美青	(国)北海道大学大学院 農学研究院
監事	戸田 英明	(株)北海道朝日航洋
監事	伊東 佳彦	北電総合設計(株)
【運営委員会】		
運営委員長	渡邊 司	ホクボウコンサルタント
運営副委員長	清水 順二	(株)ジオプラ
運営委員	磯貝 晃一	(株)開発調査研究所
運営委員	佐々木 隆	上山試錐工業(株)
運営委員	佐々木 悟	サンコーコンサルタント(株) 札幌支店
運営委員	日下田 亮	川崎地質(株) 北海道支店
運営委員	青木 淳	(株)構研エンジニアリング
運営委員	紙本 和尚	(株)シン技術コンサル
運営委員	向久保 晶	基礎地盤コンサルタント(株) 北海道支社
運営委員	山田 結城	(株)ドーコン
運営委員	渡辺 一樹	大日本ダイヤコンサルタント(株) 北海道支社
運営委員	宇佐見 星弥	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
運営委員	本間 宏樹	応用地質(株) 北海道事務所
運営委員	永井 啓資	大地コンサルタント(株)
運営委員	中鶴 真也	北海道土木設計(株)
運営委員	倉橋 稔幸	(国研)土木研究所 寒地土木研究所
運営委員	渡邊 達也	(国)北見工業大学 地球環境工学科
運営委員	柴田 純	(株)シビテック
運営委員	佐々木 裕一	北海道三祐(株)
運営委員	清水 龍来	日本工営(株) 札幌支店
運営委員	銭谷 竜一	(株)開発調査研究所
運営委員	宿田 浩司	和光技研(株)
運営委員	高橋 拓也	(株)地圏総合コンサルタント 札幌支店
運営委員（事務局長）	石田 博英	防災地質コンサルタント(株)
運営委員（事務局次長）	岡崎 修	明治コンサルタント(株)
運営委員（事務局次長）	岩間 倫秀	日本工営(株) 札幌支店
運営委員（事務局次長）	伊藤 浩介	国土防災技術北海道(株)

オブザーバー	紺野 喬義	北海道開発局 建設部 道路建設課
オブザーバー	西村 義	北海道開発局 建設部 河川工事課
オブザーバー	樺元 淳一	北海道開発局 農業水産部 農業計画課
オブザーバー	松田 茂岩	北海道森林管理局 計画保全部 治山課
オブザーバー	青木 剛	北海道建設部 土木局 河川砂防課
オブザーバー	亀森 隆志	北海道農政部 農村振興局 農村整備課
オブザーバー	福地 恵介	北海道水産林務部 林務局 治山課

[賛助会員名簿]

北海道地すべり学会賛助会員名簿

所 属	郵便番号	勤 務 先 住 所	電 話 番 号
(株)イーエス総合研究所	007-0895	札幌市東区中沼西4条1丁目4番13号	011 - 791 - 1651
岩 崎(株)	060-0034	札幌市中央区北4条東2丁目1番地	011 - 252 - 2000
上山試錐工業(株)	060-0032	札幌市中央区北 2 条東13丁目1-7	011 - 241 - 6516
応用地質(株) 北海道事務所	060-0031	札幌市中央区北1条東1丁目2番5号	011 - 200 - 9522
(株)開発調査研究所	062-0054	札幌市豊平区月寒東4条10丁目7-1	011 - 852 - 5053
川崎地質(株) 北海道支店	060-0031	札幌市中央区北1条東2丁目5-2 札幌泉第2ビル	011 - 232 - 1344
基礎地盤コンサルタント(株) 北海道支社	003-0807	札幌市白石区菊水7条2丁目7-1 SEビル	011 - 822 - 4171
(株)構研エンジニアリング	060-0034	札幌市中央区北4条東4丁目1-1 創成クロス	011 - 522 - 5010
国土防災技術北海道(株)	060-0033	札幌市中央区北3条東3丁目1-30 KNビル	011 - 232 - 3521
サンコーコンサルタント(株) 札幌支店	060-0042	札幌市中央区大道通り 西12-4-69 札幌大通ビル	011 - 271 - 2235
(株)シー・イー・サービス	062-0032	札幌市豊平区西岡2条8丁目5-27	011 - 855 - 4440
(株)シビテック	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5丁目8-1	011 - 816 - 3001
(株)ジブロー	004-0021	札幌市厚別区青葉町13丁目15-11	011 - 894 - 8331
(株)シン技術コンサル	003-0021	札幌市白石区栄通2丁目8-30	011 - 859 - 2600
(株)測機社	064-0914	札幌市中央区南14条西11丁目3-3	011 - 561 - 5203
ダイシン設計(株)	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目1-23 道通ビル	011 - 222 - 2325
大地コンサルタント(株)	070-0054	旭川市4条西2丁目1番12号	0166 - 22 - 7341
大日本ダイヤコンサルタント(株) 北海道支社	001-0010	札幌市北区北10条西2丁目13番地2	011 - 729 - 2701
(株)地圏総合コンサルタント 札幌支店	064-0823	札幌市中央区北3条西26丁目1-20	011 - 615 - 1520
中央開発(株) 札幌支店	060-0806	札幌市北区北6条西9丁目2番地	011 - 842 - 4155
東亜グラウト工業(株) 北海道支店	007-0868	札幌市東区伏古8条2丁目5番19号	011 - 783 - 7832
(株)ドーコン	062-0933	札幌市豊平区平岸3条5丁目4番22号	011 - 801 - 1570
トキワ地研(株)	065-0028	札幌市東区北28条東2丁目779	011 - 751 - 4841
日特建設(株) 札幌支店	004-0041	札幌市厚別区大谷地東4丁目2-20 第2西村ビル	011 - 801 - 3611
日本基礎技術(株) 札幌支店	060-0033	札幌市中央区北3条東8丁目8番地4	011 - 252 - 3670
日本工営(株) 札幌支店	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目 札幌センタービル	011 - 205 - 5531
パブリックコンサルタント(株)	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目 第2道通ビル	011 - 222 - 3338
北海道三祐(株)	002-0856	札幌市北区屯田6条8丁目9-12	011 - 773 - 5121
北海道土質コンサルタント(株)	062-0931	札幌市豊平区平岸1条2丁目5-16	011 - 841 - 1466
(株)北海道土木設計	060-0002	札幌市中央区北2条西1丁目1番地 マルイ札幌ビル	011 - 231 - 6321
防災地質コンサルタント(株)	001-0908	札幌市北区新琴似8条15丁目3-23	011 - 763 - 2939
明治コンサルタント(株)	064-0807	札幌市中央区南7条西1丁目21-1 第3弘安ビル	011 - 562 - 3066
(株)メジャメント	064-0912	札幌市中央区南12条西12丁目1-13	011 - 551 - 6623
ライト工業(株) 北海道統括支店	060-0006	札幌市中央区北6条西18丁目1-7	011 - 631 - 6486
和光技研(株)	063-8507	札幌市西区琴似3条7丁目5番22号	011 - 611 - 0206

[編集後記]

令和6年1月に発生した能登半島地震から丸2年経過しておりますが、震災の傷跡は今なお残っており、復旧・復興は道半ばの状況にあります。沿岸部の国道249号の本復旧完了予定は令和11年の春ころとなっており、今後も長期的な対応が求められます。過酷な現場において復旧活動等にご尽力されている方々には心から敬意を表したいと思います。

近年の地震状況をみると、直近であれば2025/12/8の青森県東方沖の最大震度6強がありましたが、1～2年に1度はこのような大きな地震が発生しており、日本列島各所で甚大な被害をもたらしています。今後もこのような地震は頻発するだろう考え方を基に、いかにして被害を減らししていくかという考え方を社会全体に広げていくことが重要であると感じます。

地すべり学会としてもこれらのニーズに応えるべく、引き続き積極的な活動（情報公開・広報活動）を進め、社会的な役割を担っていきたいと考えております。

本誌では、技術講習会および現地検討会の実施報告、技術委員会・研究調査委員会・企画委員会の活動報告を掲載しておりますので、ご一読いただければと思います。

最後に本号の発刊にあたり、原稿執筆に協力していただいた方々に深く感謝申し上げます。

本号に対する、ご意見、ご感想など御座いましたら、下記問い合わせ先までよろしくお願い致します。

原稿募集

皆様からの原稿を、常時募集致します。内容は、広く地すべりに関連する興味深い話題であればご自由ですので、下記原稿送付先までお送りください。

問い合わせ、原稿送付先

向久保 晶 基礎地盤コンサルタンツ(株) 地質技術部

〒003-0807 札幌市白石区菊水7条2-7-1

Tel:011-822-4171 Fax:011-822-4727

E-mail: mukaikubo.akira@kiso.co.jp

青木 淳 (株)構研エンジニアリング 地質部

〒060-0034 札幌市中央区北4条東4丁目1-1 創成クロス

Tel:011-522-5010 Fax:011-522-5915

E-mail: a.aoki@koken-e.co.jp

紙本 和尚 (株)シン技術コンサル 技術第2部(地質担当)

〒003-0021 札幌市白石区栄通2丁目8-30

Tel:011-859-2606 Fax:011-859-2616

E-mail: kamimoto@shin-eng.co.jp

地すべり北海道44 ～北海道地すべり学会ニュース～

発行日 2025年12月26日

発行者 北海道地すべり学会

発行責任者 北海道地すべり学会会長 石丸 聡

広報部 青木 淳、紙本 和尚、向久保 晶